

滅シ從テ全クバイフル氏現象ヲ示サ、リキト云フ、然ルニバイフル氏ハ此事實ヲ確
 ムルコト能ハサリキト云ヒ、アーベル氏ハ腹腔ヲ洗フモ一部分ノ細菌ノ崩壊ヲ來ス
 ト唱ヘ、ガルニール氏ハ新ナル肉汁培養ヲ以テ洗滌スレハメチニヨフ氏ノ主張スル
 所ト全ク一致スル所アリト云ヒ未タ一致セル成績ナシ
 又メチニコッフ氏ハ思ラク皮下結締織内ニハ白血球ノ存スルコト極メテ少ナシ故ニ縱
 令免疫體ハ血液其他ノ體液内ニ游離シテ存スルモ「アレキシシ」ノ存セザルガ故ニ菌
 溶解現象ヲ呈セザルベシト是ニ於テメチニコッフ氏ハ免疫動物ノ皮下ニ同名菌ヲ注
 射セルニ果シテ菌溶解ヲ起サルヲ實驗セリ次テメスニル及ラリンペリー氏等亦
 タ此試驗ヲ覆試セシガメチニコッフ氏ト同一ノ成績ヲ得タリ
 次ニ又窒扶斯菌ヲ以テ免疫シタル動物ノ腹腔内ニ同名菌ヲ注射スルニ敢テ著明ナ
 ル菌溶解ヲ起スコトナク主トシテ強度ノ凝集ヲ呈シ此凝集ハ常ニ旺盛ナル喰細胞
 ノ發生ヲ伴フト之レニ對シワセルマン氏ガ綠膿菌ヲ以テ行ヘル試驗ニヨレバ免疫
 動物ノ腹腔内ニハ強キ溶解ヲ起スモノナリトゲオルギンスキー氏ハ曰ク注射シタ
 ル細菌ノ一部ハ溶解サル、コト確カナルモ其大部ノ細菌ハ溶解スルコト無ク喰細胞
 ニヨリ包喰消化セラル、モノナリト尙ホカンタクヰーン及オッペル氏等ノ試驗ニヨ

レバ免疫動物ヲ阿片ヲ以テ麻醉セシムル時ハ白血球ハ腹腔内ニ游出セズ從テ斯ノ
 如キ動物ノ腹腔内ニ細菌ヲ注射スル時ハ動物ハ斃死スト
 斯クノ如クシテ免疫動物ノ腹腔内ニ細菌ト共ニ抗コムブレメント血清ヲ注射スル
 時ハ細菌ハ溶解スルコトナク動物ハ斃死ストノワッセルマン氏ノ試驗ヲメチニコッフ
 氏ハ全ク白血球ノ麻痺ヲ以テ説明セリ即抗コムブレメント血清ヲ注射スル時ハ腹
 腔内ノ白血球ハ麻痺スルガ故ニ菌ハ増殖シ動物ハ遂ニ斃死スルノミトベスレドカ
 氏ハ曰ク抗コムブレメント血清ヲ注射スル時ハ喰細胞ノ游出ヲ妨クルガ故ニ動物
 斃死スルナリト
 次ニホルデー氏ハコレラ免疫動物其血清ハ試験管内ニ於テ著明ナルファイフェル
 現象ヲ呈スノ血管内ニ直接コレラ菌ヲ注射シ三十分ノ後之レヲ撲殺セルニ動物ノ
 心臟血液内ニハ尙ホ明カニコレラ菌ヲ證明シ培養シ得タリト又ラフエラン及メス
 ニル氏ハトリバノゾーマニ對スル鼠ノ免疫ハ喰細胞ニ基クモノナリト説ケリ蓋シ
 免疫シタル鼠ノ血液ハトリバノゾーマニ對シ著明ニ凝集ヲ起スモ毫モ溶解ヲ起サ
 ザレバナリ故ニトリバノゾーマヲ腹腔内ニ注射スルモトリバノゾーマハ尙ホ生ヲ
 保ツ間ニ喰細胞ノ喰フ所トナルト

近時ノイフエルド、マルクル氏等ノ連鎖球菌及結核等ニ關スル免疫試験ニヨレバ此等諸菌ハ「コレラ」チフス等ニ於ケル如ク菌溶解ヲ起スニアラズシテ主トシテ白血球ノ包喰スル所ノモノナリト然レモ其免疫血清ノ存在ニヨリテ起ル白血球包喰作用ニ關シテハメチニコッフ氏ノ如ク免疫血清ガ白血球ノ包喰作用ヲ亢進セシムルニアラズシテ細菌ト結合シ細菌ヲシテ包喰サレ得ル状態ニ在ラシムルモノナリト解釋セリ從テ此等血清ノ作用ハ從來知ラレタル抗毒及抗菌作用ニアラズシテノイフエルド氏ハ之レヲ「バクテリオトロフ」即轉菌作用ナリト説ケリ

以上幾多ノ試験成績ニヨレバ白血球ガ「アレキシン」ノ產生ト相關聯シ又後天免疫ノ或ル場合ニ於テ免疫體ナルモノハ敢テ細菌ノ溶解ヲ起スコトナク單ニ白血球ノ包喰力ヲ旺盛ナラシメ若クハ細菌ヲシテ包喰サル、様轉向セシムルコトハ事實ナリ但シ抗菌作用ニ於テ「アレキシン」ナルモノハ既ニ游離シテ存スルモノナルヤ果タ白血球ノ崩壊ト共ニ游離シ來タルモノナルヤハ未タ明ナラズ蓋シメチニコッフ氏ノ試験ハ之ヲ他ノ意義ニ解釋シ得ベケレバナリ例之バ皮下ニ注射シタル細菌ガ腹腔ニ於ケル如ク強度ノ變化ヲ呈セザルハ皮下ニ於ケル「アレキシン」ノ分泌ハ腹腔内ニ於ケルヨリ微少ナルガ故ナリト説明シ得ベク又麻醉劑ニヨリテ抗菌作用ノ制止スル

ハ「アレキシン」分泌ノ制止ニ基クモノナリト説明シ得ベケレバナリ

之レヲ要スルニ死滅セル白血球モ生活白血球モ共ニ「アレキシン」產生ノ緊要ナル源泉ナルコト明ナリ次ニ余輩ハ抗菌血清内ニ於ケル「アンボツブトール」ノ起原ニ關スル研究ノ大要ヲ述ブベシ

抗菌血清内ニ於ケル免疫體ノ起原

「ファイヌル」及「マルクス」兩氏ノ業績ニヨレバ抗虎列刺菌及抗窒扶斯菌免疫體ハ造血臓器内ニ於テ產生スト蓋シ「コレラ」菌チフス菌及肺炎菌ヲ以テ動物ヲ免疫シ一定時ノ後之レヲ撲殺シ血液其他臓器ニ於ケル免疫體ノ多少ヲ檢スルニ血液内ニ於テ唯タ僅微ノ免疫體ヲ證明シ得ルニ過ギザルニ脾淋巴腺及骨髓内ニハ既ニ多量ノ免疫體ヲ證明シ得タリ而シテ今先ヅ動物ノ脾ヲ摘出シタル後免疫法ヲ行フニ免疫體ハ著明ニ發ス是レ淋巴腺及骨髓ガ代價的ニ作用スルガ故ナリ尙ホドエッチ氏ノ試験ニヨレバ動物ニ注射ヲ行ヒ免疫體發生ノ起ラントスル際其脾臟ヲ摘出スル時ハ免疫體ノ發生ハ比較的僅少ナリ是レ注射後既ニ一定時ヲ經過セルガ故ニ淋巴腺及骨髓ハ最早代價作用ヲ營ムコト能ハザルノ證ナリ「免疫體」ヲ發生スベキ物質ハ既ニ業ニ

脾臟ト結合セルガ故ニ之ヲ要スルニ此等ノ試験ハ何レモ免疫體ハ此等臟器内ニ於テ產生スルモノナリトノ説ヲ證スルモノナリメチニヨフ氏ハ免疫ノ際ニ脾臟等ニ於テ多核白血球ノ著ク増殖スルヲ認メ此ノ小喰細胞コソ正ニ免疫體發生ノ泉源ト見做スベキモノナレト説ケリ近時ワッセルマン氏等ハ注射局部ニ於ケル免疫體發生ヲ實驗シ是ニヨリテ局所免疫ノ理ヲ説明セリ

之ヲ要スルニ細菌或ハ細胞ノ「ハプトソール」ニ適合スル「レツエプトール」ヲ有スル臟器ハ何レモ皆其免疫體發生ノ泉源ト認メ得ベク唯ダ其最モ多數ニ適合レツエプトールヲ有スル臟器コソ特ニ其泉源ト稱セラル、ニ過ギズ

余ハ以上現時ニ於ケル免疫學說ノ概況ヲ記セリ是ニヨリテ免疫學說ニ關スル研究ノ程度爭點ノ大要ヲ窺フニ足ルベキヲ信ズ而シテ之レガ充分ナル理解ト判斷トヲ得ントセバ自ラ此等問題ノ實驗者タラザルベカラズ

免疫學說概要 畢

明治三十八年九月八日印刷
 明治三十八年九月十五日發行

定價金 壹圓

纂譯者

柴山五郎 作

東京市赤坂區蓬町七十七番地

發行者

田中 增 藏

東京市本郷區龍岡町三十四番地

印刷者

植原 儀 直

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

印刷所

建 昇 堂

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

不 許 製

發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地

吐鳳堂書店

〔電話下谷一六七二番〕



關西大賣捌

大阪市南區心齋橋筋一丁目 松村九兵衛
 大阪市心齋橋筋博勞町四丁目 丸善株式會社支社

弘通書林

東京市日本橋區通三丁目	丸善株式會社書店	京都市寺町通二條南	若林茂一郎
水郷區湯島切通坂町	南江堂書店	名古屋市京町一丁目	丸善書店
同	半田屋書店	熊本市新二丁目	長崎次郎
水郷區湯島切通坂町	金原書店	長崎市引地町	安中集榮堂
同	南江堂支店	岡山市上之町	渡邊宗次郎
神田區銀治町	朝香屋書店	金澤市片町	宇都宮書店
同	積運堂書店		

醫學士 柴山五郎 著作

細菌學大意及傳染病豫防消毒法講義

全壹冊 正價 金壹圓拾錢
 郵税金 八錢

本書ハ醫學士柴山氏ガ私立衛生會衛生事務講習會ニ於テ細菌學大意及傳染病豫防消毒法ヲ教授セラレタル講本ニヨリ成ル者ニシテ先ツ細菌學大意ニ於テハ細菌抵抗力、傳染ノ經路及傳染病學上緊要ナル問題ニ論及シ豫防消毒法ニ於テハ檢疫、隔離、消毒劑ノ性状及此等實施法ニ就テ論ゼリ蓋シ本書ハ著者専門精一ノ學識ヲ以テ深ク本邦ノ狀態ニ鑑ミ能ク斯學ノ精神ヲ發揮セラレシ者ニシテ世間一般翻譯書ノ比ニ非ザルハ論ナク加フルニ行文流暢一讀直ニ其要旨ヲ穿クシムルハ將ニ本書ノ特技トスル所也

最近之肺結核療法

全一冊 正價 金八拾錢
 郵税金 六錢

從來死病ト認メラレシ肺癆モ今ヤ一定ノ度ニ於テ正當ノ治療ヲ施セバ全治若クハ病氣ヲ中絶シ得ベキヲ確定セリ本書ハ即チ之ニ關スル最近ノ正當ナル治療法ヲ述ベシモノニシテ衛生食餌療法ニ於テハ氣候、空氣、榮養、運動、其他療養所ニ關スル諸般ノ注意ヲ述ベ特異療法ニ於テハ諸種ノ藥物、細菌、產生物ノ血清ニ關シ對症療法ニ於テハ各症狀ニ對シ施スベキ正當ノ方法ト理由トヲ述ベタリ

醫學士下平用彩纂著

增訂第拾貳版 診

斷學

全二冊

前篇正價金壹圓九拾錢郵稅拾四錢
後篇正價金貳圓貳拾錢郵稅拾六錢

精巧著色石版及木版密畫四百五十餘個挿入

著者本版ノ卷首ニ序シテ曰ク「此書ヤ又版ヲ改ムルニ當リ日進醫家ノ趨勢ニ驅ラレ通稱補正スル所甚
ク寡カラズ特ニ諸般ノ顯微鏡的検査法ノ如キハ尤モ改訂ニ意ヲ致セル所ナリ」ト然リ本版ハ實ニ前版
ニ比シテ則正増補スル所頗ル多ク且新タニ三十餘個ノ挿圖ヲ増加シ大ニ其面目ヲ一新セリ乞フ陸續愛
讀ノ榮ヲ賜ハラントヲ

醫學博士 井上善次郎 著

井上內科新書

全四冊

第壹卷(消化器病篇)

正價金二圓二十錢
郵稅金十四錢

第貳卷

呼吸器、循環器、泌尿器篇續出

著者ノ緒言ニ曰ク「本書ハ殊ニ診斷及療法ニ重キヲ置キテ實地ノ應用ニ適切ナラシメントテ勉メキ而
シテ書中外科ト關係深キ痔瘻ノ章ハ同僚三輪博士ノ執筆ヲ煩ハシタリ」ト以テ著者ノ用意ノ如何ニ周
到ナルカヲ知ルニ足ルベシ。元來我邦ニ行ハルベキ內科書ハ我邦固有ノ點アルヲ要シテ翻譯ナル
ヲ容サズ而シテ如斯要求ハ多年學生薰陶ノ任ニ當リ實地診療ノ職ヲ經タル著者ノ如キ學者ニ向テ始メ
テ之ヲ望ムコトヲ得ベシ今ヤ著者ガ最得意トセル消化器病篇出ヅ敢テ江湖ニ告白ス

3/12/40

醫學士下平用彩纂著 [精巧挿圖壹千七拾六個]

新纂外科各論

全四冊

正價八圓小包送料參拾錢

全部
但シ臺灣ハ廿錢増シ

前篇上(頭)

部(二版)正價貳圓
郵稅拾六錢

六錢

後篇上(腹)

部(三版)正價貳圓
郵稅拾六錢

六錢

前篇下(頸胸脊柱)

部(二版)正價貳圓
郵稅拾六錢

四錢

後篇下(上肢下肢)

部(二版)正價貳圓
郵稅拾六錢

六錢

紛々タル現時ノ外科各論ノ中尤モ能ク時運ノ進度ニ應ジ取捨其宜シキヲ得タリトノ公評アルハ實ニ新
纂外科各論ナリ本書ハ著者下平先生金澤醫學專門學校ニ於テ教鞭ヲ執ラル、コト多年ソノ日々學生ニ
講述スル所ヲ基礎トシ傍ヲ博ク舶載ノ新著内外學者ノあるばいと等迄ヲモ斟酌シ斬新有益ナル圖畫ヲ
挿入スルコト毎卷二百有餘ニ及ビ冗長ニ流レズ粗略ニ陥ラズ用意周密ニシテ首尾一貫セルノ好著トナル
ニ至リタルモノニシテ外科學講習者及臨牀醫家年來ノ渴望ヲ應ジテ餘リアルハ更ニ言ヲ要セザル所今
ヤ増補改版完結ス依テ茲ニ公告シテ普ク世ノ好學家諸君ニ報ズ

新纂外科總論

全三冊

前編 二冊
後編 一冊

前編上卷

(外傷及炎
症總論)

近刊

次卷續出

本書ハ今ヤ稿ヲ脱シテ割闕ニ附シ近日先ヅ其前編上卷ヲ發行シ明年二月ヲ以テ全部ノ完成ヲ期セント
ス蓋著者ノ外科各論ヲ世ニ問フヤ大ニ讀者諸君ノ歡迎ヲ博シ既ニ第二版ノ發行ヲ見ルニ至ル此間之ニ
關聯スル總論ノ出版ヲ促サル、ヤ切也是レ著者ニ乞ヒ此舉ヲ企テシ所以也希クハ各論ト共ニ愛讀ノ榮
ヲ賜ハラントヲ

醫學博士 三浦守治 著
醫學博士 佐多愛彦 著

〔精巧著色木版及石版密畫百廿八個挿入〕

顯微鏡的研究法

全三册

(增訂三版)

●前編 病理學及細菌學ノ由來發達并最近ノ進步

正價 九拾錢
郵稅 六圓

●中編 顯微鏡的研究法

正價 壹圓四拾錢
郵稅 八圓

●後編 一般病理組織學

正價 壹圓
郵稅 六圓

全部

正價 參圓參拾錢
小包料拾五錢
但シ臺灣ハ小包料參拾五錢

三版ノ稿ニ著手以來三年茲ニ全部完結現今ノ進運ニ適當セル研究法ノ一切ヲ網羅シテ遺漏無キヲ期ス
後篇ハ病理組織及細菌各論ノ部ニ於テ幾多ノ新事實ヲ追加シ著者自製ノ原圖ヲ増シ細菌診斷一覽ヲ加
ヘ殆ンド新著ノ面目ヲ具ス

醫學博士 緒方 正規 校閱
東京帝國大學助手 兒玉豊次郎 著

實用細菌學

總論

全一册

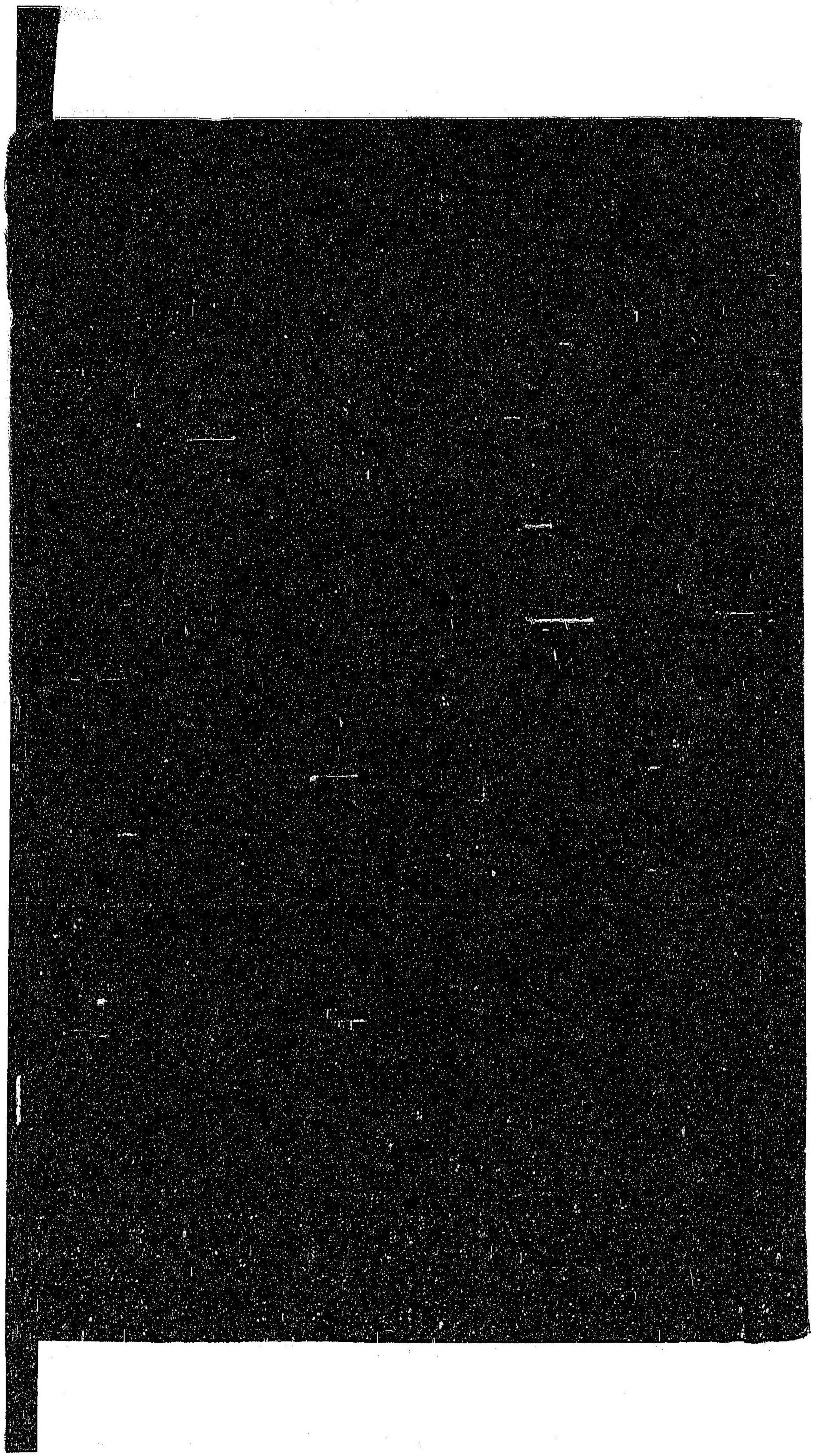
精巧木圖多數挿入

印刷中

右ハ多年緒方博士ノ門ニ在テ研鑽セラレタル兒玉氏ガ自家ノ實驗ヲ經トシ歐西大家ノ述作ヲ緯トシ以
テ本書ヲ著作サレシモノニ書中難硬ノ熟字ヲサケ初學者諸君ニモ解シ易カラシメンガ爲メ最モ多數
ノ圖畫ヲ挿入シタレバ毫モ隔靴ノウラミナシ

59

20



058481-000-6

59-20

免疫学説概要

柴山 五郎作/編訳

M38

CBB-0833



